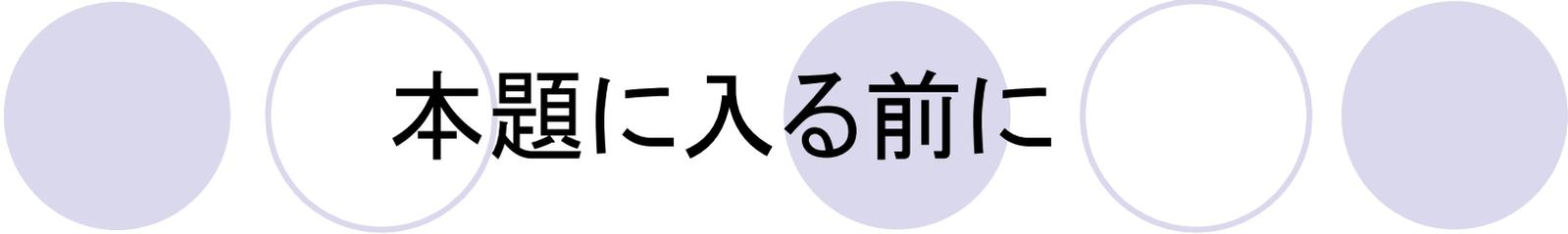


# 岩手沿岸における 震災復興コミュニティビジネスの 現状とその持続可能性

岩手県立大学総合政策学部

栗田但馬

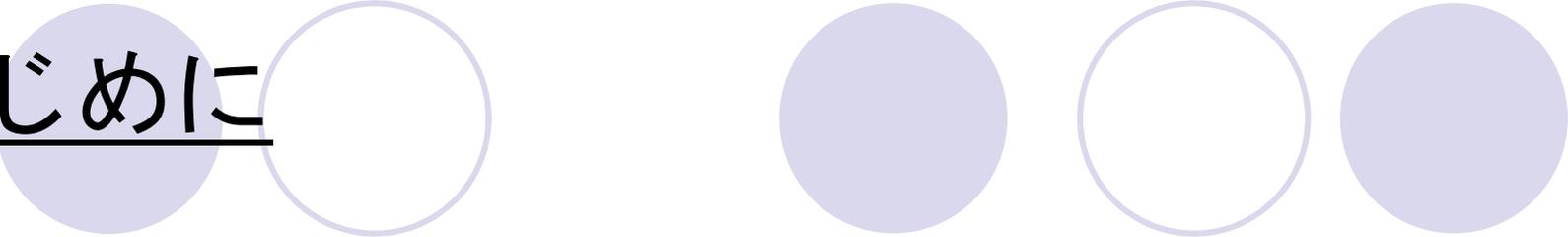
～岩手県総合計画審議会～



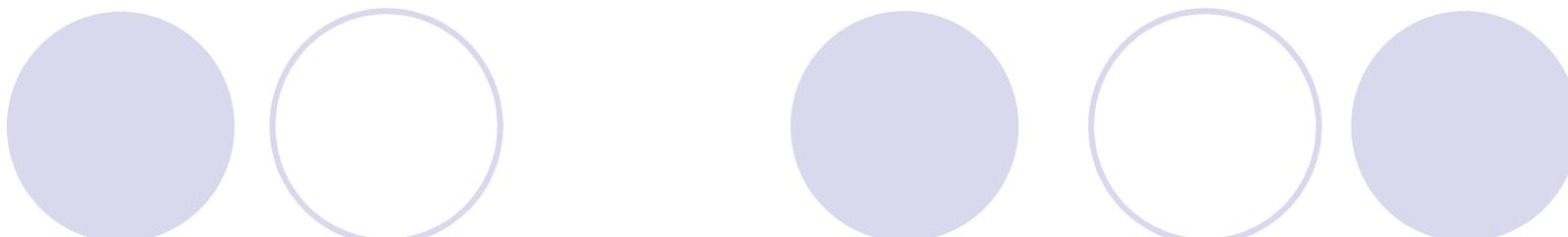
## 本題に入る前に

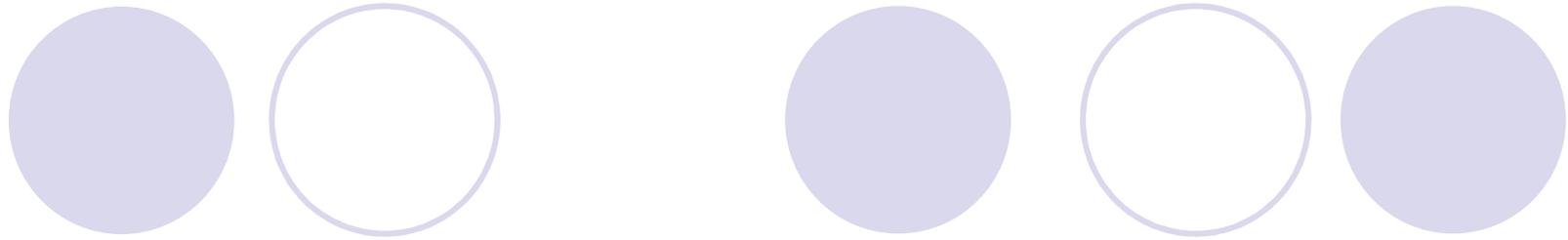
- 岩手県立大学平成24年度地域政策研究センター地域協働研究(地域提案型・前期)
- 県政策推進室 照井富也 主任主査  
田澤清孝 主査
- 「本県の人口の社会減に係る対策について」  
という大きな課題

## はじめに



- 東日本大震災による地域の雇用維持・創出力の大幅低下
- UターンやIターンの活発化：若手を中心に幅広い世代
- 地域（住民）の主体性、自律性にもとづく雇用創出・維持力の再生にとってヒント！
  - 岩手沿岸で就業できる条件づくり

- 
- 地域の仕事（生産）と暮らし（生活）に関する新たな価値を見出し、地域内外で共有していく活動・・・社会的な事業による再建・復興
  - コミュニティビジネスあるいはソーシャルビジネスからアプローチ→「震災復興コミュニティビジネス（CB）」「震災復興ソーシャルビジネス（SB）」
  - 全体の構図がみえない→発信や普及によって大きな損失→復旧・復興の遅れ！

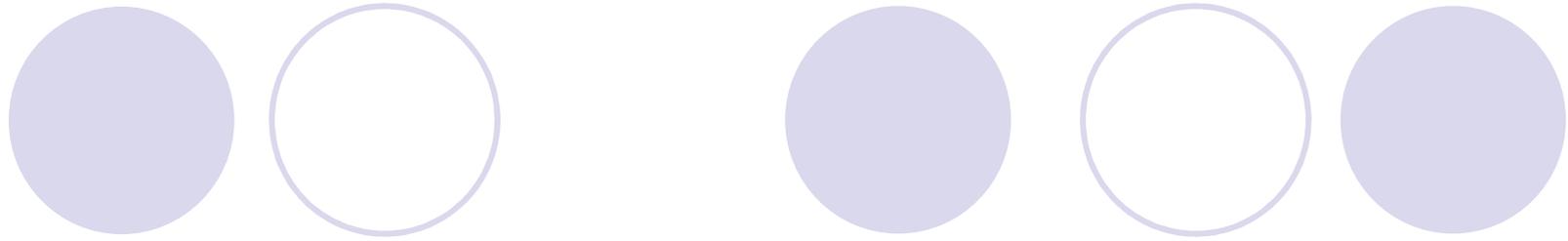


岩手沿岸における震災復興コミュニティビジネスの実態を明らかにし、その持続と発展に向けた課題を検討する。

「『なりわい』の再生」にとって重要な示唆  
(県復興計画)

# 1. 岩手沿岸における東日本大震災後の地域経済問題

- 経済成長・開発優先型の「創造的復興」か、「人間(住民)・地域本位の復興」か
- 仕事・雇用、暮らし(住宅)、コミュニティの一体性・・・(旧)市町村における公的セクター、私的セクター、非営利・協同セクター等の役割の分担と連携
- 県復興計画 & 「『なりわい』の再生」: 県民の「人間復興」、地域(コミュニティ)の「自治復興」、地域資源の「発掘・利活用」



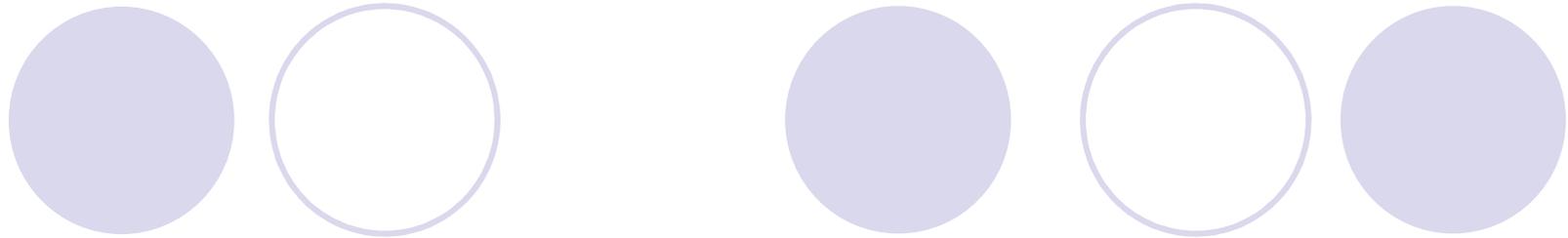
大震災から約2年  
沿岸における仕事・雇用の状況の特徴

## 2. 雇用維持・創出とソーシャルビジネス、コミュニティビジネス

### (1) 雇用維持・創出における人間・地域中心の視点

*とくに沿岸地域の復旧・復興における最重要課題として雇用の維持・確保*

- ① 生活の糧を得るための雇用の確保 & その受け皿となる産業・生業の建て直し



②大震災を契機とする新事業による  
雇用創出・・・新たな価値

キャッシュ・フォー・ワーク(CFW)：

単なるつなぎプロジェクトか？

「まけないぞうタオル」

「三陸に仕事を！プロジェクト」

(浜のミサンガ「環」づくり)

## (2) SB／CBの概念整理と研究成果

●地域、労働や生活の質の向上を目指す社会的な事業を指すが、共通の定義は未確定。

①社会性

②事業性・継続性

<図1>

③革新性

→事業効果は地域に及び、事業利益は基本的に地域における事業継続のための再投資に向けられる。



●CB: 社会性が最も重要な基準

「現在解決が求められる社会的課題に取り  
組むことを事業活動のミッションとすること」

基準・・・SBとCBがそれぞれ部分的に重な  
るように捉えられる。 <図2>

●SBとCBの主体

社会的な信頼性や事業の継続性など

→法人格が必要になる。

→事業の結果として法人格が選択される。

・・・NPO法人「多」

### 3. 震災復興CBの事例とその特徴

#### (1) 震災復興CBの事例

##### 1) 陸前高田市

＜一般社団法人SAVE TAKATA＞

- 市出身者 & ほとんど若手
- 各種イベントの企画・実施、コミュニティ支援、県内外プロジェクトへの参画など
- 県「新しい公共支援事業」に採択



## <NPO法人

陸前高田市支援連絡協議会Aid TAKATA>

- 首都圏に暮らす市出身者らの活躍
- 復興イベントの実施、災害FM運営、「ゆめちゃん」グッズ販売、「矢作すぎっこ村」運営

<NPO法人陸前たがだ八起プロジェクト>

- 市内最大級の仮設住宅団地「モビリア」
- 見守り&被災者の主体的な復興の支援
- めまぐるしく変化する住民ニーズへの対応





## ＜なつかしい未来創造株式会社＞

- 陸前高田市等の企業経営者らで構成
- 起業家育成・開業支援、研修ツアー・教育旅行の受け入れ、まちづくり支援など

## 2) 大船渡市

### ＜NPO法人夢ネット大船渡＞

- コアメンバー6人前後、会計規模1,700万円
- 盛駅舎「ふれあい待合室」(交流空間&手芸品等販売など)、「復興ニュース」発行、被災者支援イベント、仮設住宅支援事業

### 3) 釜石市

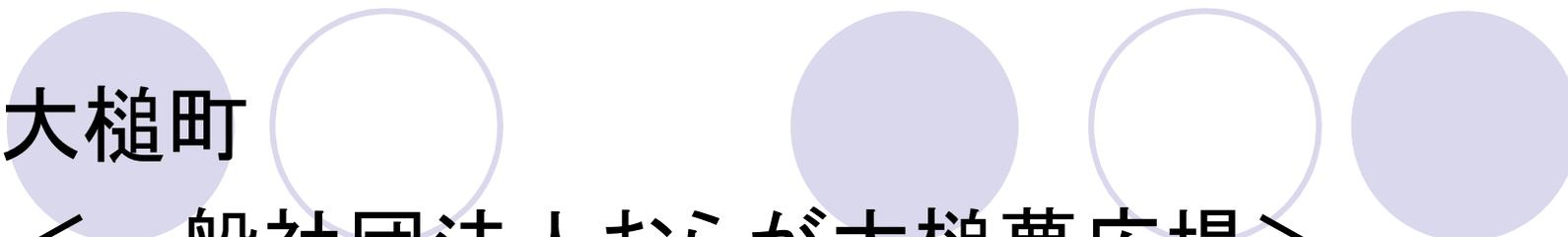
＜三陸ひとつなぎ自然学校（任意団体）＞

- 30代前半の若き代表
- ボランティアツーリズム（ボランティア＋各種体験）、「さんりく釜石わかもの塾」（人材育成）

＜NPO法人

アットマーククリアスNPOサポートセンター＞

- 「釜石市仮設住宅団地支援連絡員配置事業：被災者支援&雇用創出・・・エリアマネージャー8名、支援連絡員75名



#### 4) 大槌町

＜一般社団法人おらが大槌夢広場＞

- スタッフ: 女性・若手「多」
- 復興食堂、被災地ツーリズム、まちづくり人材育成、地場産品販売、「大槌新聞」発行

＜NPO法人吉里吉里国＞

- 森林資源の有効活用(→雇用創出)
- 「復活の薪」(&「復活の森」)プロジェクト(被災林等の活用)、自伐林業の普及、薪文化の復活・継承、森林教室・講習





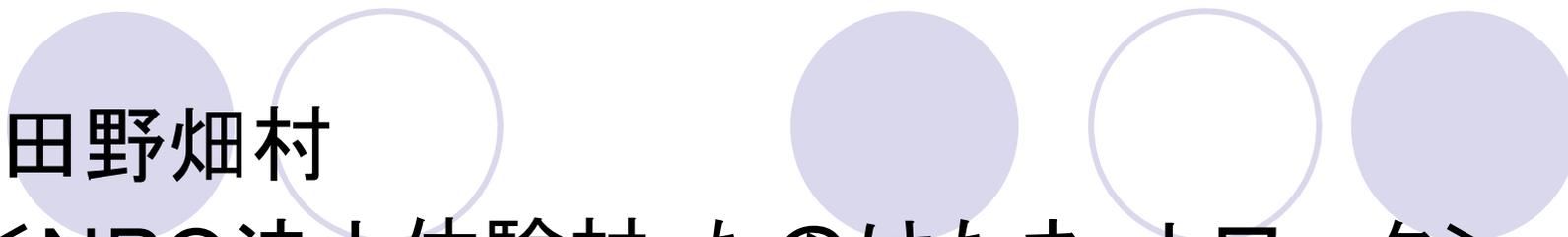


<NPO法人まちづくり・ぐるっとおおつち>

- 被災者の生活再建支援・・・仮設住宅等での交流事業、「復興瓦版」発行、移動販売車による産直販売、移送サービス

<マリンマザーズきりきり(任意団体)>

- ワカメ(茎や芯の部分)の加工品の製造・販売で有名な女性グループ(「いわて食の匠」)
- 仮設食堂「よってったんせえ」(大槌産・三陸産へのこだわり)



## 5) 田野畑村

<NPO法人体験村・たのはたネットワーク>

- 番屋エコツーリズム(村民一体型体験プログラム)→震災版番屋ツーリズム

## 6) 洋野町

<はまなす亭>

- 女性グループの食堂・・・地元の水産物(とくにうに・ほや)の料理・加工品の提供(通販もあり)
- 「ウニぷろじえくと」、ブルーツーリズム

## 7) 盛岡市

＜三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会＞

- 実行委員長：岩手めんこいテレビ社長
- 浜のミサガ「環（たまき）」
- 釜石市、大船渡市、大槌町、山田町など

＜一般社団法人SAVE IWATE＞

- ボランティア受け入れ・派遣・仲介、こころと体のケア、チャリティ事業、復興ぞうきん、三陸の和グルミプロジェクト



0001円

手作り  
珠のミサンガ  
1100円

珠のミサンガ 環 たまき  
この「ミサンガ」は、女性たちの手仕事です。復興の勇気を必めて、漁網を使ってつくりました。三浦(みやま)や支障してつなごうの証として、ぜひの思い出書きや表示してお届けいたします。

大沢桃子 恋し涙  
大沢桃子 恋し涙  
大沢桃子 恋し涙





## 8) 遠野市

### <NPO法人遠野まごころネット>

- 被災者の生活支援、観光業・農林漁業の復興支援、復興グッズ販売、ボランティアコーディネート、チャリティ事業・イベント実施
- 2012年度支出見込み6.6億円

## 9) その他の震災復興CB

- ①手芸作品の製作・販売(女性)
- ②復興グッズの生産・販売
- ③被災地ツーリズム



陸前高田市



復興しました！  
御支援ありがとうございます！

名称	めぐ海焼(白あん・さつま芋)
原材料名	米粉、小麦粉、さつま芋、白あん、 げん、砂糖、胡麻油、水飴、ドライ イースト、塩
賞味期限	2012.10.01
保存方法	直射日光、高温多湿を避 けて保存して下さい
製造者	工房めぐ海(代)臼井剛 岩手県陸前高田市広田町字山田 46-6 TEL・FAX 0192-56-4430

生ものですからお早目にお召上がり下さい。

  
4560471180046

  
¥300

## (2) 震災復興CBの類型化とその特徴

### <共通の特徴>

- ①事業の開始・継続：県内外からの支援・助成 & 大小様々な組織との連携・協働
  
- ②若手と女性の大活躍：単なる雇用創出・所得確保にとどまらない



③地域内外の多くのボランティアやサポーターによって支えられている。

④地域・住民ニーズの変化→事業の内容・規模、サービス提供先、事業主体の体制も変えていることが多々みられる。

⑤様々な媒体を通じた情報発信→総体的に地域の仕事や生活の再建にとって好循環



## < 共通の苦勞 >

- ① 人材不足、資金確保
- ② 支援活動の現地コーディネート、連携・協賛先探し、助成事業等の申請手続

## < 震災復興CBの類型化 >

「産業系」: 三陸ひとつなぎ自然学校の「ボランティアツーリズム」、おらが大槌夢広場の被災地ツーリズムや復興食堂の運営など

< 表1 >



「生活系」: 夢ネット大船渡の「ふれあい待合室」運営や「復興ニュース」発行、「SAVE IWATE」の避難生活支援など

「総合系」: 「SAVE TAKATA」や「遠野まごころネット」など・・・事業が多分野にわたる。産業系とともに若手の活躍が際立っており、スタッフ数も多い。

## <CBの基準・条件別>

「社会性」:まちづくり・ぐるっとおおつちによる  
仮設住宅等での交流事業や「復興瓦  
版」発行、SAVE IWATEのボランティ  
ア受入れ・仲介など「◎」(主に生活系)

「事業性・継続性」:おらが大槌夢広場の農商  
工連携・復興食堂や「大槌新聞」、体験  
村・たのはたネットワークの震災版番屋  
ツーリズムなど「◎」(全て産業系)

「革新性」: SAVE TAKATAやAid TAKATAのイベントやプロジェクト、マリンマザーズきりきり、体験村・たのはたネットワーク、はまなす亭の活動など「◎」  
(総合系と産業系)

<表1>

<会計規模・事業規模>

「超大」: 遠野まごころネットなど

「小」: 陸前たがだ八起プロジェクト、吉里吉里国、マリンマザーズきりきりなど

## 4. 震災復興CBの課題

### ＜短中期的な共通課題＞

- ①公的、私的、非営利の各セクターの支援・助成が著しく不足しており、その充実が強く求められる。
- ②震災復興CBの継続性の点で、大きな支障を来たす「風化」をできる限り防ぐこと。
- ③震災復興CBを継続するための自己努力も問われる。・・・資金が流れる仕組みづくり。



④手芸作品や復興グッズに関しては4、5年で終了してもよい性格であるが、継続の場合、既存の手法をレベルアップさせる必要がある。

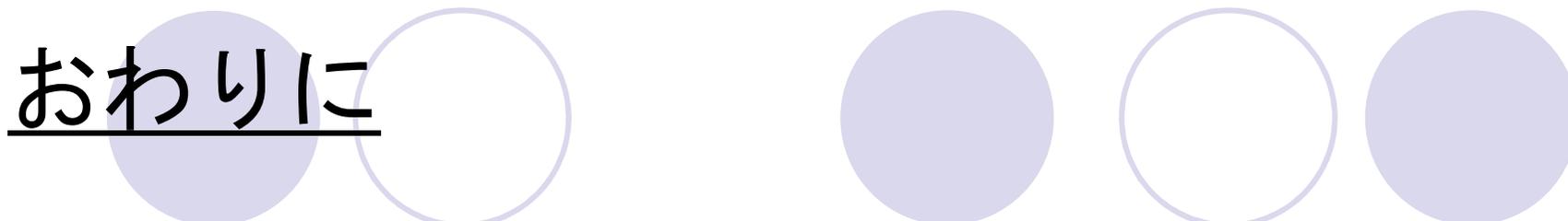
⑤震災復興CBに関わる起業や新規事業に対する支援の充実・強化である。

⑥震災復興CBの基本から周知徹底を図ることが要請される。

## <各類型に焦点を当てた短中期的な課題>

- ①生活系にとって各セクターの支援・助成は中期的にみても広範に求められる。
- ②産業系は地域内外のマーケットを舞台に積極的に仕掛けていくこと。
- ③総合系は革新性を発揮しながら、あるいは向上させながら事業分野を見極め、また事業性・継続性を重視していくことが不可避となる。

おわりに



①震災復興CBの全体の状況がある程度明らかになったので、その発信や普及が進めば、復旧・復興に大きな弾みがつく。

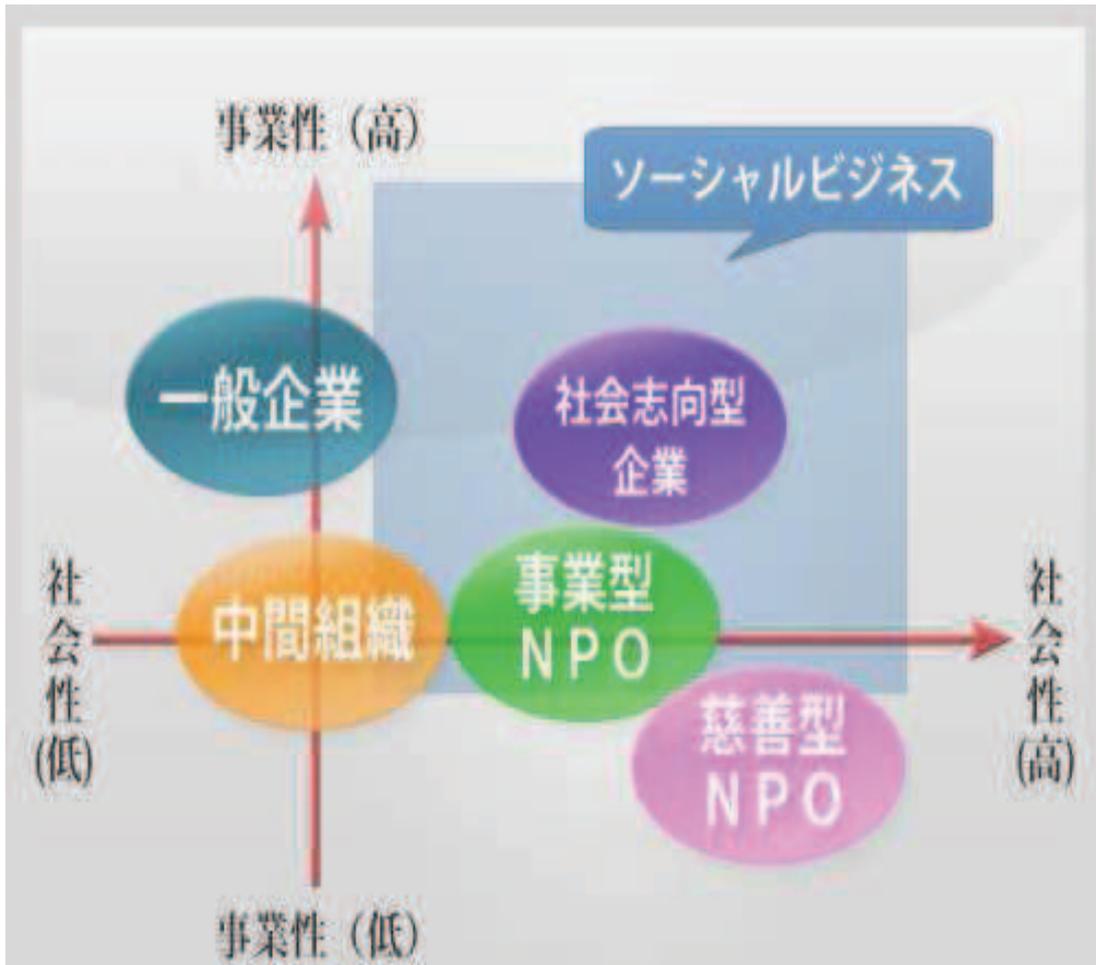
②震災復興CBの課題を提示したが、地域内外の住民・企業の多様な参加・参画がその推進にとって非常に重要な意味をもつ。

③震災復興CBはいわば小規模な「攻め」を地道に積み重ねるとともに、地域（郷土）への「誇り」、自らの「生き甲斐」、地域全体の「希望」を獲得すること。

④震災復興CB及びCB／SBの推進は公的、非営利・協同、私的各セクターの役割分担や国・地方の行財政のあり方を見直すこと。

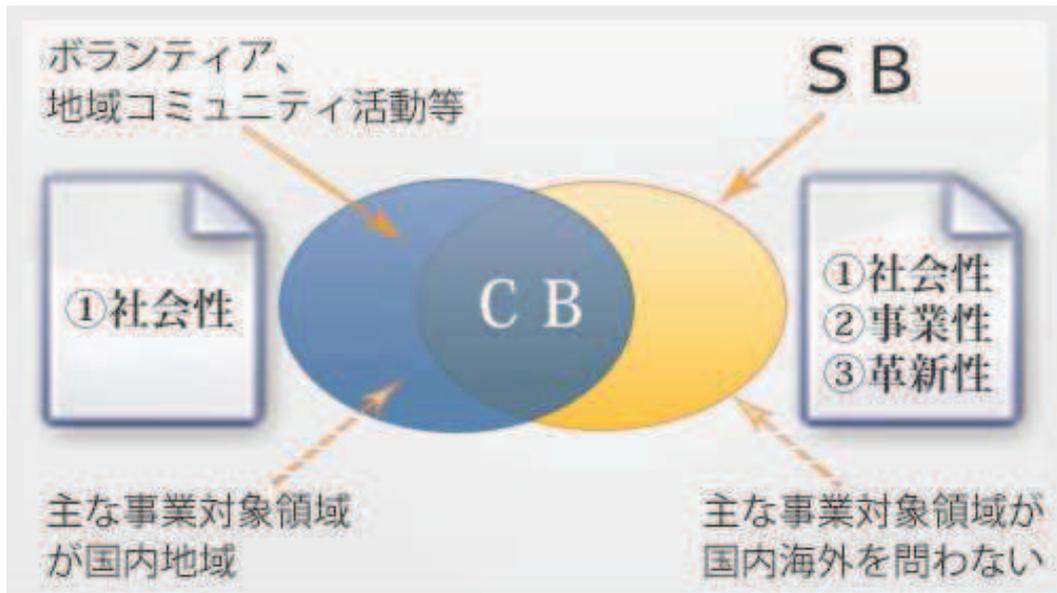
*ご静聴ありがとうございました。*

図1 SBの概念図（その1）



(出所) ソーシャルビジネス研究会 (2008)「ソーシャルビジネス研究会報告書」経済産業省

図2 SBの概念図（その2）



（出所）ソーシャルビジネス研究会（2008）「ソーシャルビジネス研究会報告書」経済産業省

表1 岩手における震災復興CBの類型

事業分野	一般社団法人 SAVE TAKATA	NPO法人 陸前高田支援連絡協議会 Aid TAKATA	NPO法人 陸前高田市八起プロジェクト	なつかしい未来創造株式会社	NPO法人 ネット大船渡	三陸ひなとぎ自然学校	NPO法人 アマリアサポートセンター	一般社団法人 おらが大槌場	NPO法人 吉里吉里	NPO法人 まぐり・ぐとのおち	マリナーズマズキ	NPO法人 村のはたのネットワーク	なま亭はす	三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会	一般社団法人 SAVE IWATE	NPO法人 遠野まろネット	手芸作品・販売	復興グッズ・製作・販売	被災地ツーリズム
総合系(多分野)	☆	☆		☆			☆				☆	☆	☆		☆				
産業系						☆		☆	☆		☆	☆	☆					☆	☆
生活系			☆		☆					☆				☆	☆		☆		
社会性	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	○	◎	△	△	△	◎	◎	◎	◎	○	○
事業性・継続性	△	○	△	△	△	○	△	◎	○	△	◎	◎	◎	○	○	○	△	△	○
革新性	◎	◎	△	○	○	◎	△	◎	○	△	◎	◎	◎	△	○	○	△	○	◎
事業規模(会計規模)	中	中	小	中	小	小	中	大	小	小	小	小	中	大	超大	超大			

(注)事業分野は☆で、CBの基準・条件は◎、○、△で示している。事業規模は2012年の夏・秋を目安としている。

